

グループ会社の環境保全活動の状況

私たちは“One-NITTO”の考えに基づき、グループ一丸となった環境経営に取り組んでいます。日頃から情報共有を積極的に行い、国内・海外グループにおいても、日東電工と同等の環境保全対策を実施しています。

グループ会社の環境対策の状況

国内・海外グループ会社との情報共有を活発化させ、各社の状況に応じて活動に取り組んでいます

国内・海外グループ会社においても、日東電工と同様に環境基本方針に則り、環境保全活動に取り組んでいます。グループ環境安全委員会や環境安全グローバル会議で、グループ全体の目標や活動の進捗状況を確認するとともに、情報共有などを行っています。

国内グループでは、年4回開催するグループ環境安全委員会だけでなく、常日頃から交流を持ち情報交換を行っています。海外グループについては、環境部員が適宜訪問をするほか、年1回の環境安全グローバル会議で交流を図っています。

国ごとに法律や状況がそれぞれ違うことから、目標達成への方法はさまざまですが、常に“One-NITTO”として同じ課題や目標に向かって、国ごとの法律、状況、事業に適した方法で活動を推進しています。

■ 産業廃棄物の削減

各拠点において再資源化の取り組みを活発に実施しています。

国内グループでは、三重日東電工が再資源化率100%を達成し、日東シンコー、ニトムズ、日東ライフテックでも90%以上と全体的に向上してきています。

海外グループでも、日東電工(上海松江)が再資源化率89.9%、日東ヨーロッパでは92.4%と再資源化は進んでいます。しかし、排出量については国内と比較して多い状況が続いています。

■ CO₂排出量の削減と省エネ

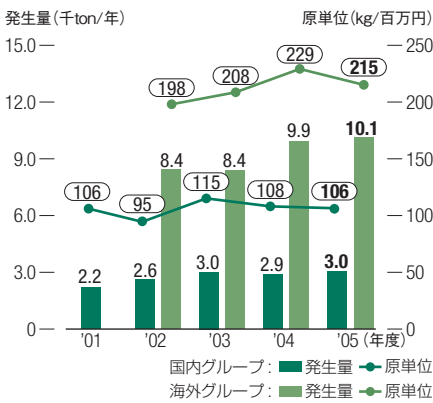
CO₂排出量削減のため、三重日東電工では、2006年度下期に重油から都市ガスへの燃料転換を計画しています。

■ 有機溶剤の大気排出防止

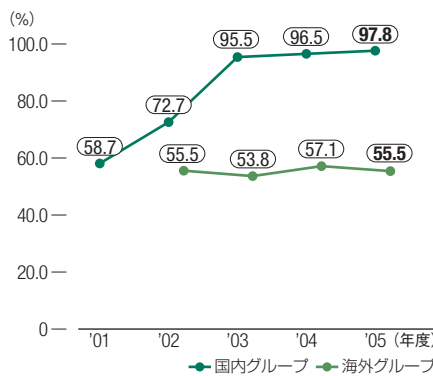
日東電工と同様に、各種の溶剤処理装置を設置し対策を行っています。有機溶剤処理については、処理能力の高い設備、また処理能力が高い方法を選択しています。

海外グループについては、台湾日東電工が2003年3月に脱臭炉を設置したことで、2003年度以降の排出量は減少しています。

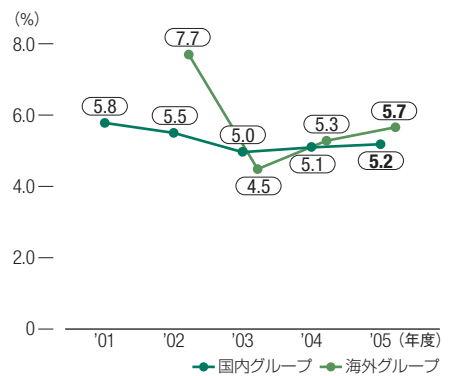
産業廃棄物の発生量と原単位



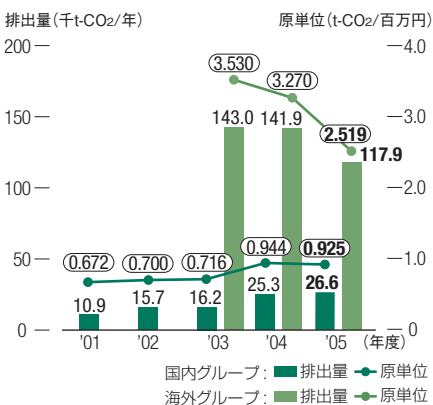
再資源化率



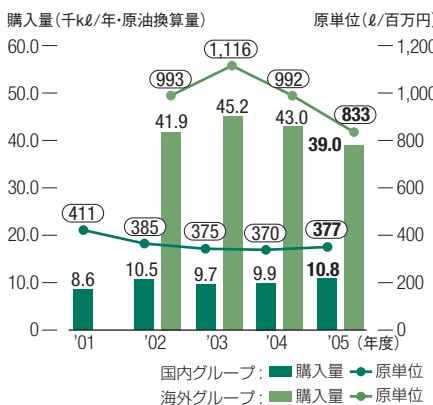
産廃原価比率



CO₂排出量と原単位



エネルギー購入量と原単位



有機溶剤の大気排出量

